

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月13日

【四半期会計期間】 第14期第2四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）

【会社名】 株式会社メディビックグループ

【英訳名】 MediBic Group

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 喜多見浩次

【本店の所在の場所】 東京都千代田区紀尾井町4番1号

【電話番号】 03(3222)0132

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 三坂大作

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区紀尾井町4番1号

【電話番号】 03(3222)0132

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 三坂大作

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第2四半期 連結累計期間	第14期 第2四半期 連結累計期間	第13期
会計期間	自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日
売上高 (千円)	108,151	67,941	207,288
経常損失 (千円)	58,240	129,349	183,897
四半期(当期)純損失 (千円)	59,281	133,960	186,984
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	53,612	118,235	173,459
純資産額 (千円)	220,261	397,369	365,713
総資産額 (千円)	268,871	430,457	412,707
1株当たり四半期(当期)純損失金額 (円)	2.91	5.14	8.80
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	78.8	91.9	86.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	67,288	119,985	178,255
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	13,326	13,891	26,589
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	73,610	146,894	320,612
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	54,729	190,189	177,064

回次	第13期 第2四半期 連結会計期間	第14期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日
1株当たり四半期純損失金額 (円)	2.59	1.96

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、平成24年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いましたが、第13期連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純損失金額を算定しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失を計上しているため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

当社グループは、営業損失、経常損失、当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローにおきまして前連結会計年度まで継続してマイナスを計上しており、当第2四半期連結累計期間におきましても営業損失117,664千円、経常損失129,349千円、四半期純損失133,960千円を計上するに至っており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、デフレ経済の解消と再生を掲げたアベノミクスへの期待感から、円高是正、株価上昇さらには経済マインドの好転などにより日本経済は徐々に回復の兆しを見せつつあります。

当社グループを取り巻く環境としましては、政府が推進する医療分野の成長戦略の取り組みのもと、iPS細胞などによる「再生医療」の早期実現、ゲノムコホート研究、バイオバンク基盤整備、「個別化（テーラーメイド）医療」などの取り組みが活発化しました。

このような状況のもと当社グループは、検体バンキングサービスを中心としたPGxサービスソリューションの営業強化及び薬剤の有効性と副作用のリスク判断を行う「おくすり体質検査」の販売を積極的に進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における連結業績、セグメントの業績は、次のとおりであります。

	実績(千円)	対前年同期増減(千円)
売上高	67,941	40,210 減
営業損失	117,664	55,978 増
経常損失	129,349	71,109 増
四半期純損失	133,960	74,679 増

バイオマーカー創薬支援事業

バイオマーカー創薬支援事業につきましては、PGx試験支援サービスの主体となる検体バンキングサービス、検体管理システム販売、RNA増幅試薬の販売及び臨床試験サポートを、国内外の製薬メーカー、アカデミック・研究機関に対して提供してまいりました。

検体管理・匿名化システムや研究用試薬の販売においては、主力の検体バンキングサービスなどを中心に新規顧客開拓に注力してまいりましたが、研究用試薬の受注の減少及び価格競争や仕入価格の上昇による利益率に低下によりバイオマーカー創薬支援事業の売上高は63,122千円（前年同四半期比18.0%減）、セグメント利益（営業利益）は6,453千円（前年同四半期比76.7%減）となりました。

テラーメイド健康管理支援事業

テラーメイド健康管理支援事業につきましては、PGx試験支援サービスにおけるノウハウを活用した個人向け健康管理支援サービスとして、「おくすり体質検査」「CYP2D6遺伝子検査」などの販売をクリニック、調剤薬局などを通じて行ってまいりました。

ベースとなる「おくすり体質検査」は、主に調剤薬局からの引き合いが増えており、各種メディアでの露出効果もあり、薬による副作用発症リスク判定を遺伝子レベルで手軽に行うことができる検査として、徐々にではありますがその有用性と認知度は広がりつつあります。

一方、非接触型体温計は、販売計画を下回った結果、テラーメイド健康管理支援事業の売上高は4,818千円（前年同四半期比47.0%減）、セグメント損失（営業損失）は19,420千円（前年同四半期比11.7%増）となりました。

創薬事業

創薬事業につきましては、米国Eleison Pharmaceuticals, Inc.（Eleison社）が開発している抗がん剤Glufosfamide（グルフォスファミド）の支援に取り組んでおります。

Eleison社は、治験業務受託企業のPharm-Olam International Ltd.を選定し、平成24年2月には、開発資金を調達するなど第 相臨床試験開始に向けた準備をしておりますが、第 相臨床試験申請の遅れにより当該試験計画が遅延しております。

こうした状況下で当社グループは、第 1 四半期連結累計期間までは具体的にアジアの製薬企業に対しライセンス交渉を行ってきておりませんでした。当第 2 四半期連結累計期間は、Eleison社との協力関係の見直し、再構築を行っておりますが、具体的な第 相臨床試験の進捗及び成果を得るまでには至っておりません。

この結果、創薬事業における売上高の計上はなく（前年同四半期の創薬事業の売上高は704千円）、セグメント損失（営業損失）は2,210千円（前年同四半期は1,508千円の損失）となりました。

投資・投資育成事業

投資・投資育成事業につきましては、当第 2 四半期連結累計期間に保有株式の売却等はありませんでした（前年同四半期は売上高21,359千円）。また、投資先の事業状況等の精査の結果、投資損失引当金繰入額2,827千円を計上いたしました。これにより、セグメント損失（営業損失）は3,251千円（前年同四半期は8,324千円の利益）となりました。

その他

当第 2 四半期連結累計期間におきまして、新株予約権の行使期間満了により新株予約権戻入益6,540千円を特別利益として、また平成25年2月7日付で設置した第三者委員会に係る調査費用10,000千円を特別損失として計上しております。

(2) 財政状態の分析

当第 2 四半期連結会計期間末における総資産は430,457千円となり、前連結会計年度末に比べ17,750千円増加いたしました。主な要因としては、現金及び預金の増加13,124千円、営業投資有価証券の増加12,543千円、有形固定資産の増加12,998千円によるものであります。

負債は33,088千円であり、前連結会計年度末に比べ13,904千円減少いたしました。主な要因は、買掛金の減少3,459千円、その他流動負債の減少9,006千円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ31,655千円増加し、397,369千円となりました。これは四半期純損失133,960千円を計上したものの、新株予約権の行使に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ79,025千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ13,124千円増加し、190,189千円となりました。当第 2 四半期連結累計期間の概況は次のとおりです。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは119,985千円の支出となりました。これは主に売上債権の減少16,089千円による増加があったものの、税引等調整前四半期純損失132,809千円及び新株予約権戻入益

6,540千円によるものであります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは13,891千円の支出となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出14,341千円によるものであります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは146,894千円の収入となりました。これは新株予約権の行使による株式の発行による収入156,425千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

当社グループにおきましては、継続企業の前提に疑義を生じさせるような事象を解消するため、「事業収益の拡大」及び「資産のキャッシュ化」を経営の柱とするとともに、資金調達の検討を行い、安定した財務基盤の確立に努めてまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可 金融商品取引業協会名	内容
普通株式	26,254,720	26,254,720	東京証券取引所 (マザーズ)	(注)1, 2
計	26,254,720	26,254,720		

(注) 1. 単位株式数は100株であります。

2. 「提出日現在発行数(株)」欄には、平成25年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		26,254,720		2,425,692		2,958,889

(6) 【大株主の状況】

平成25年6月30日現在			
氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社CFキャピタル	東京都豊島区高松2丁目6-5	5,000,000	19.04
橋本 康弘	大阪府東大阪市	866,500	3.30
カブドットコム証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目3番2号	553,200	2.11
マネックス証券株式会社	東京都千代田区麹町2丁目4-1	382,620	1.46
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9-1	292,000	1.11
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	202,000	0.77
岩井コスモ証券株式会社	大阪府大阪市中央区今橋1丁目8番12号	176,200	0.67
和田 修治	愛媛県松山市	171,300	0.65
楽天証券株式会社	東京都品川区東品川4丁目12番3号	162,700	0.62
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SPECIAL ACCOUNT NO.1 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決裁 営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4丁目16-13)	161,200	0.61
計		7,967,720	30.35

(注) 株式会社CFキャピタルから平成25年7月30日付の大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり、平成25年7月23日現在で4,000,000株(保有割合15.24%)を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況は株主名簿上の所有株式数に基づき記載しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年6月30日現在			
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,254,100	262,541	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 620		
発行済株式総数	26,254,720		
総株主の議決権		262,541	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,400株(議決権34個)含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、アスカ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	177,064	190,189
受取手形及び売掛金	50,751	34,661
営業投資有価証券	145,185	157,729
投資損失引当金	43,519	46,346
商品及び製品	194	1,336
仕掛品	17,338	17,307
貯蔵品	2,472	2,809
その他	10,751	11,893
流動資産合計	360,240	369,580
固定資産		
有形固定資産	3,130	16,129
無形固定資産		
その他	25,453	20,597
無形固定資産合計	25,453	20,597
投資その他の資産		
投資その他の資産	28,691	28,960
貸倒引当金	4,810	4,810
投資その他の資産合計	23,881	24,150
固定資産合計	52,466	60,877
資産合計	412,707	430,457

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,023	564
未払法人税等	8,276	6,837
その他	34,693	25,686
流動負債合計	46,993	33,088
負債合計	46,993	33,088
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,346,667	2,425,692
資本剰余金	2,879,864	2,958,889
利益剰余金	4,838,586	4,972,547
株主資本合計	387,945	412,035
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32,081	16,354
その他の包括利益累計額合計	32,081	16,354
新株予約権	9,815	1,650
少数株主持分	33	38
純資産合計	365,713	397,369
負債純資産合計	412,707	430,457

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	108,151	67,941
売上原価	41,230	35,974
売上総利益	66,921	31,967
販売費及び一般管理費	128,606	149,631
営業損失()	61,685	117,664
営業外収益		
受取利息	14	11
投資損失引当金戻入額	2,278	-
受注損失引当金戻入額	811	-
貸倒引当金戻入額	1,149	-
雑収入	802	806
その他	0	-
営業外収益合計	5,058	817
営業外費用		
支払手数料	1,290	9,530
投資事業組合等損失	-	2,471
為替差損	322	501
営業外費用合計	1,612	12,502
経常損失()	58,240	129,349
特別利益		
新株予約権戻入益	-	6,540
特別利益合計	-	6,540
特別損失		
固定資産廃棄損	18	-
特別調査費用	-	10,000
特別損失合計	18	10,000
税金等調整前四半期純損失()	58,259	132,809
法人税、住民税及び事業税	1,022	1,152
法人税等合計	1,022	1,152
少数株主損益調整前四半期純損失()	59,281	133,961
少数株主損失()	0	1
四半期純損失()	59,281	133,960

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	59,281	133,961
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	5,669	15,726
その他の包括利益合計	5,669	15,726
四半期包括利益	53,612	118,235
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	53,612	118,233
少数株主に係る四半期包括利益	0	1

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	58,259	132,809
減価償却費	3,336	6,198
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,149	-
投資損失引当金の増減額(は減少)	2,278	2,827
受注損失引当金の増減額(は減少)	811	-
受取利息	14	11
支払手数料	1,290	9,530
為替差損益(は益)	293	105
投資事業組合等損益(は益)	0	2,471
新株予約権戻入益	-	6,540
売上債権の増減額(は増加)	7,255	16,089
たな卸資産の増減額(は増加)	14,997	1,447
営業投資有価証券の増減額(は増加)	12,518	-
仕入債務の増減額(は減少)	1,444	3,459
その他	8,073	10,505
小計	62,335	117,762
利息及び配当金の受取額	14	11
法人税等の支払額	4,967	2,233
営業活動によるキャッシュ・フロー	67,288	119,985
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	240	14,341
無形固定資産の取得による支出	8,000	-
貸付金の回収による収入	1,149	-
敷金及び保証金の差入による支出	6,482	-
出資金の分配による収入	247	-
その他	-	450
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,326	13,891
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	75,062	156,425
手数料の支払額	1,290	9,530
少数株主への配当金の支払額	161	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	73,610	146,894
現金及び現金同等物に係る換算差額	293	105
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	7,297	13,124
現金及び現金同等物の期首残高	62,027	177,064
現金及び現金同等物の四半期末残高	54,729	190,189

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

当該変更による当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
給与手当	34,796千円	23,752千円
支払手数料	14,900千円	34,496千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金	54,729千円	190,189千円
現金及び現金同等物	54,729千円	190,189千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、新株予約権の一部行使による払い込みを、下記内容にて受けております。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,214,682千円、資本剰余金が2,747,879千円となっております。

(単位：千円)

種類	権利行使者	権利行使日	資本金	資本剰余金
新株予約権	Evolution Master Fund LP	平成24年6月14日	10,151	10,151
	Evolution Master Fund LP	平成24年6月18日	10,151	10,151
	マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社	平成24年6月19日	12,947	12,947
	Global Opportunities Fund Ltd. SPC c/o Evolution Master Capital Management, LLC,	平成24年6月20日	5,075	5,075
合計			38,324	38,324

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、新株予約権の一部行使による払い込みを、下記内容にて受けております。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,425,692千円、資本剰余金が2,958,889千円となっております。

(単位：千円)

種類	権利行使者	権利行使日	資本金	資本剰余金
新株予約権	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月8日	1,365	1,365
	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月10日	9,532	9,532
	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月15日	3,152	3,152
	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月17日	3,185	3,185
	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月22日	2,880	2,880
	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月23日	13,950	13,950
	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月24日	2,790	2,790
	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月25日	6,062	6,062
	マッコーリー・バンク・リミテッド	平成25年1月28日	36,107	36,107
合計			79,025	79,025

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	バイオマ ー創薬支 援事業	テーラーメ イド健康管 理支援事業	創薬事業	投資・投資 育成事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	76,989	9,098	704	21,359	108,151		108,151
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	76,989	9,098	704	21,359	108,151		108,151
セグメント利益又は損 失()	27,747	17,389	1,508	8,324	17,175	78,861	61,685

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 78,861千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	バイオマ ー創薬支 援事業	テーラーメ イド健康管 理支援事業	創薬事業	投資・投資 育成事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	63,122	4,818			67,941		67,941
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	63,122	4,818			67,941		67,941
セグメント利益又は損 失()	6,453	19,420	2,210	3,251	18,428	99,236	117,664

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 99,236千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更による当第2四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	2.91円	5.14円
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	59,281	133,960
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	59,281	133,960
普通株式の期中平均株式数(株)	20,403,651	26,058,311

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。
2. 当社は、平成24年7月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月13日

株式会社メディックグループ
取締役会 御中

アスカ監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	田	中	大	丸	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	法	木	右	近	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社メディックグループの平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社メディックグループ及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成24年12月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成24年8月13日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成25年3月26日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。